

東日本大震災復興支援研究テーマ第2弾

「スポーツ・イベントで持続可能な“真の復興”を！」

○太田 正治（社団法人 日本イベント産業振興協会）

沖 佳保里（有限会社 コブタカンパニー）

キーワード 社会価値、持続可能性、絆力、facebook

（序文）

「復旧」と「復興」の差は大きい。復旧を、言葉どおりの「被災直前の状態」に戻すという意味で使うなら、仮に10年の復旧期間が掛かったとするならば、他の地域はその間10年の振興や進展があったはずで、その差はどこまでいっても縮まらない。現実的には、そうしたグラフに描かれた直線のような変化にはならないまでも、勿論、インフラの復旧は必要不可欠のものであるが、我々は「地域社会の復旧」ではなく、被災前の地域が持っていたポテンシャルをより以上に高め振興する「復興」、すなわち「興す（おこす）」ことに注力すべきである。

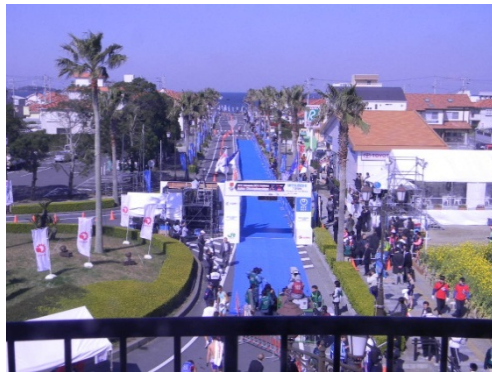
事実、かなりの数で「近所の人というと近所付き合いに支障がでるので、隠れて西日本の食材だけを宅配で購入している人」がいて「東北の産物は、頑なに、食べない・子どもに食べさせない」という話も聞く。セシウム137の半減期（放射線の量が半分に減るまでの期間）は約30年だが、こうした風評被害の「半減期」というのはあるのだろうか。

（目的）

我々の使命は、風評被害も含め、感情的でヒステリックな排除意識を変えるために、何よりも「実際に被災地へ足を運ばせる」ことが必要で、集客や誘客をイベントというコミュニケーション形態を使って促進することにある。イベント・コミュニケーションは、あえて語弊を避けずにいうならば、一口に「社会価値の交換」により「絆を強める」効果のある事業だといえる。さらに、イベント形態の中でもスポーツ・イベントの持つ共感や価値の共有力ともいえる「絆」パワーは、被災地の「復興」に寄与する重要なツールだと考える。スポーツ・イベントを開催し、人々の心のなかに「活力」や「やる気」を起こさせ、その気持ちを全世界の人々と「共感」させることこそ、いま必要な活動だといえる。

1. スポーツ・イベントによる復興支援事例

①CYCLE AID JAPAN ②館山トライアスロンアジア選手権 ③宮城国際七ヶ浜トライアスロン大会



2. 社会価値の共有化＝“絆”づくり

社会、特に地域社会の中の人と人の関係は複雑だ。ただし、何かひとつの価値、社会的に共有できる価値が「共有」できれば、絆が生まれる。それは、旧社会では「祭り」や「神事」における“恐れ”であり、現代では「スポーツの勝敗」＝ホームチームの「勝ち」で、単純に「嬉しい」を共有でき、市民マラソンなどで知り合いの「走る姿」は、自分を重ね合わせる「自己実現」に近い感覚を享受で

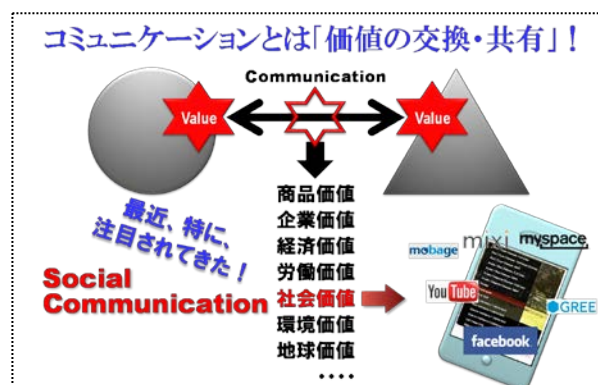
きるのである。絆力で“ベガルタ仙台”が上位にいる。(この原稿を書いているときはTOP)

もちろん、音楽やさまざまなアートによる社会価値の共有もある。古くは「LIVE AID」や「Band Aid」、新潟妻有「大地の芸術祭」など。これらも、アーティストの健気な姿や行動に共感することで社会価値を共有している。

イベントは、地域を横断して開催できる自由度がある、特に、参加型のイベントではスポーツ・イベントが「分かりやすさ」や「見える化しやすさ」などで有利であることは自明である。

ただし、上記のような「社会価値の共有」から地域社会の絆を形成することも重要であると同時に、個人の多様性も必要である。その個人の個性が持つ価値観の違いによって、地域に「社会」「経済」「環境」のそれぞれの価値の重みに多様性が生まれ「持続可能性」のバランスが保たれる。

社会価値の共有に、いま最も大きな役割を演じているのが、FacebookなどのSNSを中心としたwebコミュニケーション形態である。



3. SNS (Facebook) の活用でより多くの“絆”を拡張

昨今、食事をするたびに写真を撮ってFacebookに上げている人が目につく。彼らの行動は、まさに「おいしい」という社会価値を共有したいという欲望に押されている。米国では9.11以降、急激に拡大した。いまや、SNSが社会の絆を形成する大きなインフラとなっている、最近「いじめ」が原因で自殺する子どもたちが増えている。もし、仮に、彼らが自由にSNSを利用して、辛さを受け止めてくれる人とコミュニケーションできていたら、あるいは自殺を食い止めていたかもしれない。少なくとも、見て見ぬふりをする大人も子どもも、そうしたwebコミュニティには参加してこないだろうから、もしかしたら「彼」がいじめられていることを知ったら、もっと社会に働きかけ、当事者の親や地域の人々に伝わっていたかもしれない。こうした社会の自助作用、共助作用、公助作用は、社会価値を共有（絆の形成）を経験することで、納得のいく理解が可能とある。スポーツ・イベントが、地域社会の活性化や治安の維持、若者の流出を防ぐなど、大きく貢献できる可能性を秘めているのは、絆の強固な地域社会をつくることと同じ効果を持っているからに他ならない。スポーツ・イベントの活用次第では、その地域の経済活性化にも社会的な安全・安心にもつながる効果を発揮させることができるものとして、今後、行政・企業・市民・大学など多くのセクターが注目すべき事業といえる。

(結論)

<https://www.facebook.com/sport.kizuna>

facebook